

---

# 同居人の唄

白山菊理

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

同居人の唄

### 【著者名】

Z5523C

### 【作者名】

白山菊理

### 【あらすじ】

彼はとってもそそかしい。片付けも満足に出来ないし、よくダジを踏む。でも、そんな彼でもとても優しいから私は傍に居たいと思つんだ。

まつたく。彼つたら今日も遅刻ギリギリで出て行つたわ。  
私が起こさなければ、今頃遅刻して会社でいびられるはめになつて  
いたでしょうね。  
しつかりして欲しいものだわ。

それから、部屋の掃除もしつかりしてほしいわね。  
足の踏み場が無いくらい散らかっているんですけども。  
いくら私でも、この状況には首を傾げてしまうわ。

はあ……私もちょっと気分転換に散歩でも行つてしようかな?  
彼は夜まで帰つてこないから暇だし。

『バタン』

今日は雲ひとつ無い青空。

日の光がキラキラしてて、優しい風が吹いて、絶好の散歩日和だわ。

緑が綺麗ね。

此処の公園の芝生は思わず寝転びたくなるほど素敵。

あら、奥様こんにちわ。

その子が、こないだ生まれた子ね。近所でも評判よ。  
有り余るほど元気が良いつて。

え？ 私？

私のほうは相変わらず変化が無いわ。未だに独身よ。  
負け犬？

嫌だわ、あんな生き物と一緒にしないで頂戴。ふふふ。  
ええ、それじゃまた。

流石に此処の公園は色々なものが集まるわね。  
特にこの時間帯は。

くあ～。

何だか眠くなつてきちゃつた。

あそここの木の下のベンチで少し休もうかな。

\*

あら、もうこんな時間？

随分長い事此処で休んでしまつたみたいね。  
そろそろ帰らないとね。

家に帰つてももう少しの間暇でしようけど。

彼、そそつかしいからな～。

今日の日の事、覚えているかしら？

あれ？

玄関に彼の靴がある。  
もしかして……

「おお、ちいちゃん。何処に行つてたんだ？心配したんだぞ？」

そう言つて彼は私を優しく抱き上げた。  
今日は特別な日。とつても、とつても。

「もつ、お前が拾われて今日で一年経つのか。早いものだな。」

そう、今日は私が彼のところに転がり込んで、ちょうど一年になる  
日。

土砂降りの雨の中、雨宿りする場所も見つけられず、体が冷えてい  
き、このまま死んでしまうかと思ったあの時、彼は私を見つけて拾  
ってくれた。

家につれて帰るなり、タオルで私の体を拭いてくれた。  
あのタオルの温もりは今でも忘れられない。

結局そのまま居候。

何も出来ない私だけだ、彼は私が居てくれる事が嬉しいみたいだ。  
それに今日のこともありやんと覚えててくれたしね。

「やつだ、お前にプレゼントがあるんだ。お前は白いから何色でも似合っちゃうんだけど、やっぱり女の子だしな。」

そう言って袋から取り出したのはピンクのリボン。  
優しく、私の首にそれを回し、後ろで結ぶ。

「やつぱり似合つな。」

彼の顔は、満足そうで嬉しそう。

やつぱり貴方は優しいのね。

そそつかしくて、掃除が下手で、よくドジを踏むけど。  
けれど、貴方はこんなにも温かくて優しい。

「あやめ。」

私は小さく鳴いた。

「あつがとつ「つ」という気持ちを込めて。

E  
N  
D

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5523c/>

---

同居人の唄

2011年2月3日14時29分発行